The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	ギリシア・ローマ神話学研究会 研究発表会・講演会の開催履歴/会則/投稿規定
Author(s)	
Citation	神話学研究. 2017, 1, p. 139-141
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/66989
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

ギリシア・ローマ神話学研究会 研究発表会・講演会の開催履歴

第1回（2008年1月26日）

内田次信　「ケルトのヘラクレス」の異様と偉容――ルキアノスと言語の力

第2回（2009年1月26日）

戸高和弘　ギリシア神話とカタルシス――本格ミステリーのパラダイム

第3回（2010年3月21日）

勝又泰洋　母から離れる息子――ホメロス『オデュッセイア』における、テレマコスとペネロペイアの関係についての一考察

上月翔太　ルカヌスにおけるfamaと人間

第4回（2011年1月26日）

西井　奨　メーデイアの二つの「炎」――オウィディウス『名高き女たちの手紙』第12歌

加藤　浩　プロクロスの神話解釈――『プラトン『国家』註解』第6論稿第1部より

第5回（2012年2月25日）

二宮紗恵　トロイアにおける女神アテナに関する一考察――『イリアス』第6巻から

西井　奨　オウィディウスの神話叙述におけるadynatonについて

堂山英次郎　古代インドの英雄神話について――異常出産と捨て子を中心に

内田次信　ヘラクレスの死

第6回（2012年7月14日）

長沼　晃　『イリアス』におけるディオメデス像についての一考察

第7回（2012年12月22日）

平山晃司　跛行の象徴性について

第8回（2013年2月26日）

勝又泰洋　ディオーン・クリューソストモスと3人の放浪者

小堀馨子　オウィディウス『祭暦』におけるパリリア祭の記述とロムルスの建国神話

西塔由貴子　『イリアス』に見られる色彩表現の一考察――φοῖνιξが象徴するもの

西井　奨　オウィディウスのデーイアネイラ――『名高き女たちの手紙』第9歌におけるfamaとfactum

第9回（2013年3月29日）

D. Boedeker　Early Greek Poets as/and Historians

第10回（2013年7月27日）

佐藤真理恵　αが否定するもの／開くもの――アプロソポンをめぐる一考察

堀川　宏　エウリーピデース『ヒッポリュトス』の劇構成――「この日モチーフ」と「無知のテーマ」の絡み合い

栗原麻子　συνθῆκαι καὶ ὅρκοι――前403年アテナイにおける和解儀礼を中心に

第11回（2013年11月30日）

里中俊介　プラトン『国家』におけるムーシケー教育の意義

勝又泰洋　ルーキアーノス・アナカルシス・「ギリシア」アイデンティティ

西村周浩　民間語源とマルス神

第12回（2014年3月1日）

河島思朗　オウィディウス『変身物語』序歌における歴史性

玉垣あゆ　セネカ悲劇における「夫婦の信義（Fides coniugis (coniugi)）」

西村賀子　原型的乳母――『オデュッセイア』のエウリュクレイアをめぐって

第13回（2015年8月1日）

竹下哲文　マルクス・マーニーリウス『アストロノミカ』（1. 1-24）――詩と題材の共鳴

勝又泰洋　ピロストラトス『テュアナのアポッローニオス』における語り手の情報の取り扱いについて

西井　奨　媒体から見るウェルギリウス受容――C. Kallendorf, *The Protean Virgil* 紹介

第14回（2016年7月30日）

服部桃子　ローマ恋愛詩におけるfurorの変遷

中村満耶　ホラーティウス『カルミナ』第3巻第4歌における詩人と詩の女神――第5行のauditisを中心に

上月翔太　Vida 叙事詩の構造

第15回（2016年12月24日）

佐野　馨　死後の物語から見たアキレウスに対するイメージについて

別府陽子　トーマス・マンのアポロンとアポロン的なもの――トーマス・マンのニーチェ受容研究より

阿部達哉　ピンダロスのピューティア第9番におけるキューレーネーとアポローンの結婚

ギリシア・ローマ神話学研究会会則

第1条　本会はギリシア・ローマ神話学研究会と称し、事務局を大阪大学大学院文学研究科文芸学研究室に置く。

第2条　本会はギリシア・ローマ神話学を中心に広く神話と神話学一般の研究および普及を行うことを目的とする。

第3条　本会は、機関誌『神話学研究』（*Studies in Mythology*）の刊行、研究発表会・講演会の開催、およびその他本会の目的を達成するために必要と認められる事業を行う。

第4条　本会は、本会の目的および設立趣意に賛同する限りにおいて、入会希望者を本会の会員として受け入れる。

『神話学研究』投稿規定

1. 投稿資格

ギリシア・ローマ神話学研究会の会員は、『神話学研究』に投稿する権利を有する。

2. 投稿の種類

本誌への投稿は、未発表の学術論文・研究ノート・書評・翻訳（以下、「論文等」）に限る。

3. 執筆要領

論文等に用いる言語は次のいずれかの方式とする。

1) 本文を日本語で書き、日本語以外で要旨を付す。
2) 本文を日本語以外の言語で書き、日本語で要旨を付す。

論文等の分量は、本文・注・図表・図版等も含め、和文の場合は400字詰め原稿用紙30枚～50枚程度、欧文の場合は7000ワード程度とする。要旨は、和文の場合は800字程度、欧文の場合は300ワード程度とする。原稿の書式の詳細については、投稿希望者に別途連絡する。

4. 論文等の提出

原則として、MS-WordファイルおよびPDFファイルの2点を電子メールに添付して提出する。

5. 投稿論文の採否および掲載号

原稿は1名以上の査読委員により掲載の採否を決定する。掲載に当たっては、修正を求めることがある。大幅な修正が必要な場合は、掲載を次号以降に送ることがある。

6. 校正

著者校正は、初校および再校の2回とする。著者校正では、原則として印刷上の誤り以外の字句の修正や挿入を行えないものとする。

7. 投稿期限

2月末日必着。